

## 腰痛予防と持ち上げ重量に関する研究

### 【研究概要】

重量物取扱いに関する安全衛生管理基準は国により異なる。これは、作業者の安全衛生リスクが異なることにつながり、また管理を難しくする。このようなことから、重量物取扱いに関する共通した安全衛生管理基準が必要であり、ISO11228-1（2003）はその基準になると考えられる。

しかし、ISO11228-1（2003）で推奨されている米国の NIOSH lifting equation（米国労働安全衛生研究所の持ち上げ計算式）を用いたリスクアセスメントを導入する場合、欧米人に比べて体格の小さな日本人においても最大取扱い重量値（以下「最大重量値」という。）が欧米人と同様でよいのか、また体力の劣る高齢労働者においても同様の最大重量値で良いのかを検討する必要がある。

本研究では、定常的に重量物を取扱う作業を対象に、重量物の持ち上げおよび運搬における最大重量値を明らかにすることを目的とした疫学調査および生体力学的実験を実施し、我が国における最大重量値の提案を目指す。

R3年度	① 先行研究等調査 ② web調査
R4年度	③ 労働現場での腰部椎間板圧縮力推定 ④ 実験室での腰部椎間板圧縮力測定
R5年度	③④の測定を継続
R6年度	③④の測定を継続 ①～④の調査・実験結果から、性別・年代別などの重量制限値を総合的に検討